

●● 講中を訪ねて ●●

朝霞市 広沢講中 講元 芳野 浅嗣

朝霞市の広沢講中は、埼玉県の南部に位置し東京に隣接しております。天野御師様の講中は全部が東京であり、なぜか広沢講中は埼玉の唯一の講中だと聞いています。私は祖父に代わり、四十年前より講元を務めさせていただいております。明治九年の御師様の記録では、三十七名の名簿が連名にて「岡村講中」と記されており、私達の四代前の先祖の名前が書かれておりました。広沢講中が同じ村で当時一緒であったことがわかりました。そして時代の変化により、いつしか広沢講中だけが残りまして、現在十四軒だけとなっております。

小さい講中ではありますが信仰する心は強く、毎年若芽が萌え美しい大自然をいただく御嶽神社の登山を、四月二十九日（昭和の日）に十四〜十五名で行っております。登山の途中では由緒ある御嶽神社奉納の剣道大会を見学しながらの登山を楽しみにしております。登山参拝後の御師様での直会、心のこもった手造りのごちそうを戴くと、登山の疲れも吹っ飛んでしまいます。

そして平成十二年の登山の折、御師様の内神殿で祈禱の時、古い太鼓に墨で太文字で書かれたかすかに読める文字の発見をしました。そこには、「告 慶應三丁卯二月上流武州新座郡 岡村且中」と記されておりました。あの幕末の激動の時代に寄贈した太鼓とわかり、大変な感激を致しました。早速太鼓を張り替え奉納いたしました。



2007. 10月21日 御嶽神社 階段奉納記念 広沢講中



主幹 宮司 天野 光紘
所在地 埼玉県朝霞市
講員数 14名

平成十九年十月には、参道の石段を奉納させて頂きました。御師様と私は同い年、講中の人達も同年代の人が多く、意気投合して一泊旅行を何度も行っており、これからも続けたいと願っております。最後に、私達が信仰するお山、御嶽神社と天野御師様のご繁栄をお祈り申し上げます。

第四十四回 武蔵御嶽神社奉納俳句入選作品

応募総数 四百三十五句

選者 岡田 日郎

特選

- 一席 聳えたる鳥居をくぐり初詣 昭島市 宮腰 秀子
- 二席 むささびの千年櫓に顔を出す 所沢市 遠藤 タカ子
- 三席 鶯の絶えずどこかに御師の里 中野区 辰巳 行雄
- 四席 頂きの岩に根を張り白やしほ 青梅市 津布久 信雄
- 五席 むささびの棲むてふ櫻風花す 麻 市 千家 妙子

秀逸

- 雲海の日の出を拝し御師の宿 多摩市 立川 明朗
- 小鳥来る佳き日の庭に蒲団干す 青梅市 原島 康典
- 山宮の階に枝張り冬桜 藤沢市 乗田 真紀子
- 玉堂の泊まりし宿や山桜 大和市 木林 優子
- 御師の宿切り干し大根広げあり さいたま市 土肥 寛子
- 木の茅風崖にせり出す茶店かな 松戸市 林 民江
- ひぐらしの山びぐらしの小径かな 日の出町 渡邊 敏雄
- 拝殿へ一段ごとの蟬時雨 多摩市 橋本 絢
- ケーブルカー待つ間に霧の深まりぬ 文京区 上部 隆男
- 長雨の上がり参道赤のまま 羽村市 小沢 弘子
- 土産屋に山葵並ぶや御岳山 中野区 中村 誓子
- 秋の蝶香炉の煙ぬけにけり 志木市 新宅 待春
- 御岳山会ふ人もなし時鳥 国立市 服部 直紀
- 再会に少し老いたり流行者 練馬区 結城 節子
- 神木の千万本の良夜かな 新島村 曾根 新五郎
- 初春や未塗りの宮乃大太鼓 青梅市 馬場 克巳
- サイダー飲み外国の人宮参り 相模原市 関 迪子
- 新涼や薬草風呂の大袋 横浜市 長濱 藤樹
- 初日の出参道中ば一服す 昭島市 座間 康臣
- 部耶の声止みて雨溪に来る 羽村市 杉原 功一郎

佳作

- 選者吟 講宿に頬白来鳴き山日和

おめでとうございます



神様と崇敬者の方が共に楽しみ、敬神の念を深める「巫女舞」青年期の女性だけでなく、少女期の巫女舞もとても可愛らしく神事に花を添えます。当社神主のお子さんたちも、熱心に舞の習得に向け研鑽を積んでおり、本年度は小学五年生の児童、金井友香さん・片柳麻紀さん・原島夏祝さん・久保田梅さんの四名が東京都教育委員会より「伝統・文化の継承活動を継続的に実践した生徒」として表彰を受けました。子供たちの受賞は継続の力にもなり、神社としても大変栄誉な事であり、日々努力する子供たちと、六歳の女兒から青年の女性まで幅広く講義をしてください、天野宣子講師にも深く感謝いたします。



修行体験講座

十二年毎の式年大祭、霊山御嶽山の御稜威もより深くなる年を迎え、「再生」「誕生」「転生」を強く感じていただけのことです。神道修行法は、己と向き合い、強靱な精神を養うだけでなく心身に癒され新たな自分と出会う機会となるでしょう。是非ご参加下さい。

- 一日修行体験講座
日 時 六月二十五日（日）
開催人員 三十名まで
費用 一万円（申込金・五千円）
- 滝行体験講座
日 時 七月十七日（月）午後二時集合
費用 五千円（申込時全額振込）
- 修行体験講座
日 時 九月三十日（土）〜十月一日（日）
費用 一万五千円（申込金・五千円）

奉納俳句選評

特選一席

聳えたる鳥居をくぐり初詣 宮腰 秀子
御嶽神社の本殿まで「鳥居」はいくつあるのであろうか。立派な大「鳥居」もある。実景に即して「初詣」の季節とみごとに合致した。

特選四席

頂きの岩に根を張り白やしほ 津布久 信雄
「白やしほ」は白八汐つじのこと。たしか奥社の「岩に根を張り」晩春にはみことな白花が咲く。白花はこのほかきよらかな趣があるといつていい。

特選二席

むささびの千年櫓に顔を出す 遠藤 タカ子
「千年櫓」と呼ばれる古木は、御嶽神社のシンボルの一つである。「むささび」やりのすの住み処でもある。俳句では冬の季節であり、日暮れころになると巣穴から「顔を出す」こともある。

特選五席

むささびの棲むてふ櫻風花す 千家 妙子
「花風」は冬の青空にちらつき「むささび」の「棲む」地上の千年「櫓」の回りにもちらちらと舞う。余分な語がなく要点を印象鮮明に表現して成功した。

特選三席

鶯の絶えずどこかに御師の里 辰巳 行雄
神社や講宿の近くでは春から夏にかけて「鶯」がよく鳴く。山中に餌となる昆虫などが豊富にあるからである。「鶯」は駒鳥・大瑠璃とも日本三銘鳥の王者である。

第四十五回 奉納俳句募集要項

- 一、 作品は未発表に限る
- 一、 受付は指定用紙にて投句箱へとする（郵送等直接の受付は致しません）
- 一、 締切り 平成三十年一月十五日
- 一、 発表 平成三十年三月中旬
- 一、 四季を通じ「御岳山を題材」とした俳句を募集しております。
- 一、 大勢の方の投句をお待ちしております。

おだちにお岡田日郎

昭和七年十一月三日生まれ。福田蓼汀（りょうてい）の「山火（やまび）」に投句し、昭和二十六年から編集を担当。蓼汀没後の平成二年主宰となる。山と自然を称える山岳俳句を多く詠み、五年「連嶺」で俳人協会賞。東京出身。学習院大卒。本名は晃。著作に「山の俳句歳時記」など。